「王寺版　自律・挑戦・協創型学習」について

王寺町教育委員会

○ **「王寺版　自律・挑戦・協創型学習」**とは

「王寺版　自律・挑戦・協創型学習」は、王寺町の義務教育学校が目指す教育目標であり、学習指導要領の核となる**「個別最適な学びと協働的な学び」**、そして**「主体的・対話的で深い学び」**という、現代の教育の二つの重要な考え方を統合し、具体的な学習のあり方として定義したものです。

「王寺版　自律・挑戦・協創型学習」は、未来の社会を生き抜く子どもたちが、自ら学びを深め、仲間と力を合わせ、よりよい社会を創造していくための資質・能力を育むことを目的とした学習スタイルです。

①　自律（じりつ）：個別最適な学びの実現

「自律」とは、学ぶことの意義を理解し、自己の目標や進度に合わせて、自ら学びの計画を立てて実行・調整する力です。

「自律」は、「個別最適な学び」の考え方を反映しており、すべての子どもが取り残されることなく、自分の特性や興味、能力に応じて最適化された学習を進めることを意味します。

具体的な姿：自分の興味や疑問を起点に課題を設定する。学習履歴や成果等を振り返り、次に何をすべきかを自分で決める。

②　挑戦（ちょうせん）：主体的で深い学びの追究

「挑戦」とは、未知の課題や困難に対して、失敗を恐れずに粘り強く取り組み、深く思考し、新しい価値を創造しようとする意欲と態度です。

「挑戦」は、「主体的で深い学び」に直結しており、単に知識を覚えるだけでなく、知識を既存のものと関連付けたり、活用したりしながら、深く掘り下げて考えるプロセスを重視します。

具体的な姿:「なぜだろう？」「どうすれば解決できるだろう？」と常に問いを持ち、多様な情報や考えを統合して自分なりの結論を導き出す。

③　協創（きょうそう）：協働的な学びによる価値創造

「協創」とは、多様な背景や考えを持つ仲間と対話し、互いの考えを尊重・共有し合いながら、一人では到達できない新たな解決策や価値を共に創り出す力です。

「協創」は、「協働的な学び」と「対話的で深い学び」の側面を統合したものであり、グループ活動等を通じて、自己の考えを広げ、社会とのつながりの中で学びを深めていくことを重視します。

具体的な姿: 活発な意見交換を通じて多角的な視点を取り入れ、課題解決や表現活動において共同でより質の高い成果を生み出す。

〇 まとめ

「王寺版　自律・挑戦・協創型学習」は、子どもたちが自分の未来を自分で切り拓く「自律」の力を基盤とし、困難な課題に立ち向かう「挑戦」の心を持ち、そして仲間と協力して社会的な課題を解決し、新しい価値を創り出す「協創」の力を育む、王寺町の義務教育学校が推進する新しい学びの姿です。

この解説は、教育目標の３つの要素が、国の示す２つの主要な教育の方向性（個別最適な学び・協働的な学び、主体的・対話的で深い学び）とどのように結びついているかを明確にし、各要素を具体的な子どもの姿を通して示しています。